

ビニール被覆で冬期の発生量アップ

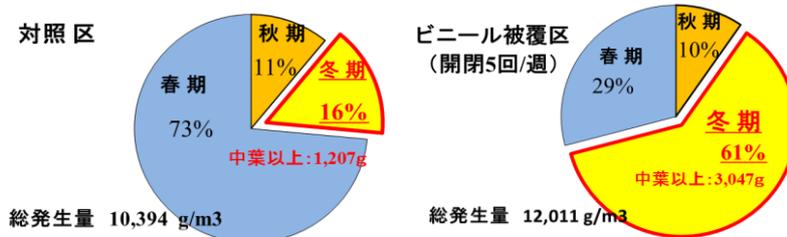
きのこグループ

1. 研究の背景 (14ポイント、MSゴシック太字)

シイタケの中温性品種（秋春出系品種）については、温暖化に伴う秋の気温低下の遅れから年内発生量が減少し、3月中下旬以降の発生がメインとなり周期的な降雨や急激な気温上昇で品質を落とすことが課題となっていた。この課題解決に向けて、3月以降の発生を前倒して、冬期（12月～2月）の発生・収穫を増やす栽培技術について研究を実施した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント (14ポイント、MSゴシック太字)

人工ほだ場で冬期にほだ木を農業用ビニールで被覆し、日中の開閉操作による温湿度管理と定期的な散水による水分補給により、収穫されるシイタケのサイズが大きくなり品質が向上し、総発生量も $2\text{kg}/\text{m}^3$ 増加した。



3. 期待される効果 (14ポイント、MSゴシック太字)

- ・冬期の発生によるシイタケのサイズアップ
- ・冬期発生による単価上昇（収益の改善）

4. 担当機関連絡先 (14ポイント、MSゴシック太字)

林業研究部きのこグループ きのこチーム

電話：0974-22-4236

豊後大野市三重町赤嶺2369